

# ここが問題！リニア新幹線

2017. 11. 4発行 NO. 59 リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 web-asao.jp/hp/linear

## JR東海がリニア新幹線工事実施計画(その2)の認可を申請

9月25日、JR東海が国土交通大臣に「中央新幹線工事実施計画(その2)」の認可を申請した。非常口やトンネル掘削などの土木工事に関する工事実施計画(その1)の認可からおよそ3年の早い申請だが、JR東海は非常口工事などが遅れていることに焦りを感じて、リニア工事が順調に進んでいることをアピールするために提出したと見られる。問題はその内容である。電気系統図や通信回線図のほか路線の平面図、縦断面図などが中心で、変電所、車両基地の規模や設計図、施設配置図、ガイドウェイや車両の設計図などは一切示されておらず、どこにどのような施設ができるのか全く記されていない。多くの人が懸念している磁界から利用客を守る磁気シールドに関しても一切記載がない。

また、(その2)自体は全く環境影響評価(アセス)を受けておらず、これを認可すること自体許されない。

JR東海はリニア新幹線は「整備新幹線」であり、全国新幹線整備計画法(全幹法)によって事業認可されたとして、工事実施計画(その1)(その2)もこれまでの新幹線同様の内容、形式、手続きとして提出されたことになる。しかしリニア新幹線は従来の新幹線鉄道とは全く異質の走行方式ゆえに、全幹法よりも鉄道事業法に則るか、たとえばリニア鉄道整備法など新しい法律をつくって審査すべきである。

このような中身のうすい計画が認可されれば、施設整備が自然環境や生活環境、利用者や住民の健康・生命、安全性にかかわる懸念は払しょくされないまま、工事が進められることになる。

私たちは、工事実施計画(その1)認可に対する異議申立てが一切審査されていない中で、国土交通大臣は、工事実施計画(その2)の認可申請を却下すべきであると考えます。

## トンネルは43カ所、最長は首都圏の大深度含む37km

今回の工事申請には路線の平面図や縦断面図、電気系統図などの図表が添付されているが、「橋梁・隧道 その他の主要な建造物の概要を示す表も含まれている。それによると、橋梁の数は78カ所、延長は11.626kmで最長は山梨県釜無川橋梁の751m。神奈川県では4カ所で、最長は相模川橋梁の263mとなっている。また、トンネル(隧道)の総延長は43カ所256.55kmで、最長は品川～川崎～町田から相模原に伸びる第一首都圏隧道の36.924km、次は春日井から名古屋の34.210kmの第一中京圏隧道となっている。山岳部では、南アルプス隧道の25.019kmが最長で、中央アルプス隧道(23.288km)、ウラン鉱床に近い岐阜県の日吉隧道(14.532km)とつづく。

## 工事計画(その2)についてアセスは行われていない

工事実施計画(その1)は、駅、車両基地、保守基地など主要な施設の規模や位置、設計など肝心なことが不明のまま環境影響評価手続きが進められ、知事意見や住民意見が反映されないのに補正評価書が提出され、国交大臣から認可を受けた。工事実施計画(その2)も屋上屋を重ねるものであり、本来は設備の安全性などの検証を含めたアセスが行われるのが当然である。このままでは何ができるのか分からないまま工事が行われることになり、住民の不安が消えることは無い。

私たちは国交大臣の却下を求めるが、(その1)と同様、(その2)についても認可されれば、国交大臣あてに認可処分に対する異議申立てを行なうことを検討したい。



# ストップ・リニア!訴訟の公正な審理を求める東京地裁宛て署名

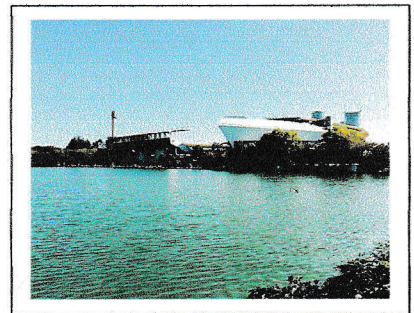
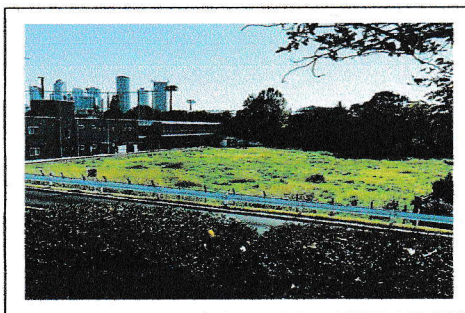
月1回の駅頭活動や大きな集会での要請活動に参加を!

リニア新幹線沿線の1都6県で、東京地方裁判所宛ての「ストップ・リニア!訴訟の公正な審理を求める署名」の集約活動を行っています。目標は12月末日の第一次集約までに10万筆。私たちリニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会の目標は1万5千筆です。皆さんの尽力で10月までに2千筆を超えました。さらに活動を強化して目標に近づけたいと考えます。小田急線の新百合ヶ丘駅、登戸駅それに南武線の武蔵溝口駅のデッキで毎月1回に加え、川崎市内を中心に開かれる集会やシンポジウムなどの会場でも、主催者の承諾を得て署名のお願いをつづけています。(写真左は登戸、右は新百合ヶ丘)



## 等々力非常口予定地はまだ着工の動きなし

10月27日、久しぶりに中原区等々力の非常口予定地周辺を見て来ました。予定地は多摩川の堤防から市道多摩幸線を挟んだ旧ENEOS野球部サブグラウンドで、JR東海が既に購入しています。中原区民の憩いの場である等々力緑地公園に隣接し、多摩川河川敷も多摩川緑地公園となっています。この緑地保全地区、災害時の一次避難場所になっているところに、直径30m超深さ100mの巨大な非常口を建設する計画となっています。(下写真左は非常口予定地、中は多摩川緑地、右は等々力緑地釣堀池)



リニア新幹線は大深度地下トンネルで、世田谷区から多摩川の下をくぐって、等々力非常口、等々力緑地内の釣堀池の下を通り、梶ヶ谷非常口に向かいます。等々力ー梶ヶ谷間のトンネル残土は全て梶ヶ谷非常口から排出されます。等々力からは非常口の切土が排出され、ダンプカーに積まれて多摩川沿線道路を国道409号線方面に運ばれると説明されています。等々力緑地の釣堀池の下でトンネル掘削が行われるため、釣堀池の水が抜けないか、貴重なセコイアの林に影響ないか心配です。



# 悪天候の中、「リニア訴訟で公正な審理求める要請署名」119筆を集約

## 台風接近をものともせず、「第31回団結まつり」 亀戸中央公園で開催



10月29日(日)午前11時から、東京・江東区の亀戸中央公園A地区で、「10.29命どう宝 第31回団結まつり」が開催され、日本航空や不二越など争議中の組合や脱原発の市民団体など多くのグループが参加しました。

29日は、台風22号が日本列島に近づき、夜には最接近する予報が出されたことで、開催中止や延期が心配されましたが、実行委員会の前日からの準備の甲斐もあって、何とか開催にこぎつけました。

ただ、前日から降り続く雨の影響で、会場の芝生には水が溜まり、ブースを設ける場所も限られ、私たちも午前中テントを張るのに一苦労しました。

東京・神奈川連絡会からは、天野共同代表のほか、伊藤(清)、山本(マ)、瀬川、児玉、三枝の6人が参加し、東京地裁裁判官宛の「ストップ・リニア！訴訟での公正な審理を求める要請署名」に協力してくれるよう会場の皆さんに訴えました。激しい雨の中、私たちテントを訪れる人が少ないことから、児玉さんと瀬川さんが署名板を持って他のブースを回って署名を集めました。



この日集約した署名は119筆で、荒天下で大変でしたが、最終的にはなかなかの成果をあげることができました。なお、隣りのテントブースは浜岡原発の再稼働に反対する静岡県の皆さんで、県名産のミカンやお茶を販売していました。このほか、北海道の団体が恒例の新巻き鮭を1尾2千円で販売していました。例年なら飛ぶように売れる物産ですが、雨にたたられる結果となり気の毒に思いました。

午後1時半ごろ、小降りになったので、静岡県のグループと一緒に写真を撮り(左写真)、雨で重くなったテントをなんとか撤収して帰途につきました。

なお、社民党の福島みずほ参議院議員が会場を訪れ、私たちのテントにも挨拶にみえました。福島さんは「国会でも質問主意書を出すなど、リニア新幹線工事の中止に向けともにこれからも頑張ります」と話しました。

団結まつりは都内の労働団体を中心に、争議組合の支援をメインに毎年開催していますが、最近では基地問題に苦しむ沖縄県民との連



帯を強く打ち出すとともに、改憲や安保法制反対も掲げています。

(報告:天野捷一)



## ストップ・リニア！訴訟

### 第7回口頭弁論は11月24日(金)

今回は愛知県の原告二人と、名古屋の弁護士が意見陳述を行います。愛知県は大深度トンネル区間で、春日井市と名古屋市で約20kmに5か所の非常口と1か所の保守用車両基地資材搬入口が設けられます。

すでに名城非常口や坂下非常口で先行着工されています。春日井市内には戦前の亜炭鉱の坑道が地下に残っており、その坑道に地下水が流れて地盤が軟らかくなり、地表が崩落する事故も散発しています。(下写真は2015.3.15の事故)



また、愛知県内の残土は瀬戸市の窯業用土石の採掘跡の埋立てに使われる予定で、周辺道路で膨大な量の工事車両が通行することにより環境破壊や住民生活、安全交通に影響するおそれがあります。

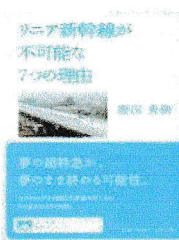
口頭弁論当日は午後1時15分から東京地裁前で集会を行い、午後2時からの傍聴券抽選に並びます。これまで7回の口頭弁論には150人以上の参加がありすべて抽選となり、103号法廷を満員にしてきました。今回も原告・サポーターや支援者を中心に法廷を満席にするため、多くの皆さんの参加をお願いします。

### 口頭弁論の後第2回リニアシンポ

11月24日の第7回口頭弁論のあと、午後4時から衆議院第一議員会館大会議室(地下1階)で、報告集会と第2回リニアシンポジウム『リニア新幹線 隠された真実』を開催します。今回は環境経済研究所の上岡直見氏、環境地盤研究所の徳

竹真人氏、リニア所掌弁護団の山下潤弁護士をゲストパネラーに迎えて、リニア新幹線の経済効果やトンネル工事の安全性、事業認可の適法性などについて、リニアの隠された真実に迫ります。午後2時半から入館証を玄関ロビーで配付。

### 岩波ブックレットの販売拡大を！

	<b>梶田秀樹著</b> リニア新幹線が 不可能な7つの理由 520円+税
<b>東京・神奈川連絡会では500円で販売中</b>	

### 南アルプスの導水路トンネル工事

協議中なのにJR東海が大成建設などに発注  
JR東海が10月に、静岡県の大井川源流部に建設予定の導水路トンネル(延長11.5km)の工事について大成建設など3社と契約したことが明らかになりました。

JR東海が南アルプストンネル工事によって、大井川が毎秒2トン減水するとして、トンネルから下流の榎島(さわらじま)までつくり、トンネル湧水を大井川に戻すという計画ですが、導水路からの漏水もあり、水量は回復しないと静岡県からも指摘され、計画の改善を協議中でした。

また、この計画では榎島から上流の水量は回復されないことになり、沢枯れが起きて希少なヤマトイワナや源流部固有の植物の生育に重大な影響を与えると見られています。

JR東海はトンネル工事の進捗をはかるため、導水路トンネルの建設を急ぐ方針ですが、地元への説明や協議が不十分。着工は許されません。

**ここが問題！リニア新幹線 NEWS NO. 59**  
発行：リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会  
天野捷一(中原・高津)090-3910-8173  
山本太三雄(宮前) 090-8775-1879  
矢沢美也(麻生・多摩)090-6108-6568